

令和5年度 長野県篠ノ井高等学校犀峽校 学校自己評価結果

2024年1月10日

企画運営委員会

学校目標（中長期目標）

- ① 基礎的・基本的な学力の定着と進路に応じた発展的学力の向上
- ② 進路実現に向けた主体的で対話的な学びの場の確立
- ③ いじめや体罰のない、一人ひとりが生き生きと活動できる学校づくり
- ④ 基本的生活習慣の確立と豊かな人間関係を構築できる校風づくり
- ⑤ 生徒・保護者・地域から信頼され期待に応えられる学校づくり(魅力ある地域キャンパス校の創造)

重点目標・評価項目観点・成果反省・改善策

評価:A十分できた Bおおむねできた C不十分である

分野	重点目標	関	評価項目	評価の観点	成果・反省	評価	向上・改善策
進路学習指導	学習意欲を喚起するとともに、基礎学力の定着を図る授業を実践する。	①	授業「総合的な探究の時間」の取り組み 授業公開週間や授業アンケートの活用	基礎学力の伸長がなされたか。 授業アンケートなどの結果をフィードバックできたか。	「総合的な探究の時間」では、学校内外を問わず体験型の学習を行い、生徒の学びに向かう姿勢の伸長を図ることができた。	A	総合的な探究の時間を活用した体験学習を継続、充実させ、生徒の学習意欲を喚起していく。授業アンケートをもとに授業改善に取り組んでいく。
	学習の習慣化を図り、家庭学習時間増加に結びつくような指導を継続実施する。	②	考査前学習週間、生活実態調査の活用 家庭学習確立月間の実施	生活の見直しが図られ、学習時間の伸長が図れたか。	考査前学習週間を活用し、生徒の基礎学力の伸長や苦手教科克服に向けた積極的な取り組みを促進することができた。	B	各学年や教科と連携し、基本的生活習慣や家庭学習習慣の定着を推進していきたい。
	キャリア教育の推進と地域社会を担う人材を育成し、個々の生徒に応じたきめ細やかな進路指導を行う。	② ③	係、学年、教科の連携による進路学習指導体制の確立 面談とガイダンスの充実と、担任、教科の情報の連携 地元企業への就業体験活動の実施 すべての生徒の進路実現 マナー教育、SSTの推進	地域と連携したインターンシップへつなげられたか。 ガイダンスの実施や模試等の結果の情報連携が図られたか。	「デュアルシステム」では地元企業で就業体験を実施し、生徒の職業意識を高めた。外部の方によるSSTや進路ガイダンス、個別面談などを実施した。「基礎力診断テスト」などの結果を職員会で示し、職員間で共有を行った。	A	学校外で行われる進路ガイダンスへの参加をより促し、早期から生徒の進路に対する意識を高めていくことができるようにしたい。SSTや進路ガイダンス等の回数を増やすことができるか検討していきたい。
	21世紀型学力養成に向け、自ら学ぶ姿勢を育てる授業を実践する。	①	知識注入型の授業から、知識・技能活用型の授業への転換の取り組み 授業評価の活用	ICT機器の活用や「深い学び」を授業に取り入れたか。 生徒に自ら学ぶ姿勢が見られたか。	多くの授業でICTを活用し、教師-生徒だけでなく、生徒間で考えを共有する活動などを通して「深い」学びを実践することができた。	A	ICTを活用しながら、生徒が自分自身の考えを表現する機会をさらに増やしていく。
生徒指導	基本的生活習慣を身につけさせるための指導を日常的、継続的に取り組む。	④	身だしなみやマナー、挨拶等の指導を粘り強く、保護者にも理解を得ながら行う。 校内美化に向けた生徒、職員一体の取り組み	身だしなみやマナーなどの向上が見られたか。	衣替えの時期を中心に、身だしなみや服装について生徒に徹底させることができた。 また、校内美化活動については、生徒職員で協力して校内を整った状態に保つことができた。	A	身だしなみやマナーについては、職員だけでなく生徒同士での呼びかけをするよう方法を検討していく。
	いじめのない心身ともに健康で安全な学校生活を送れるよう、個々に応じた指導を行う。	③ ④	ソーシャルスキル向上の視点を取り入れた指導の取り組みや職員研修の実施	いじめや体罰のない、健康で安全な学校づくりが進められたか。	安心安全な学校の環境を維持するため、職員間での密な情報共有や、生徒の見守りを徹底することができた。	A	次年度以降は職員研修の回数を増やして、生徒が安心して生活できる学校作りの参考としたい。
特別活動	クラブ活動や生徒会活動を積極的に支援する。	③ ⑤	クラブ加入の促進と、クラブ指導の充実 琅鶴祭など生徒会活動の活発化	生徒会活動、クラブ活動の活性化が進められたか。	クラブに所属している生徒を中心に、積極的に活動できた。また、生徒会活動においても、文化祭など生徒が活躍できる場を設けることができた。	A	地域との連携の機会を増やせるよう模索していく。
	地元小中学校や地域との交流活動を進め、連携を図る。	③ ⑤	授業「総合的な探究の時間」での確かな成果 地域での活動を通して、地域に信頼される学校を目指す	交流活動や地域での活動が地域の信頼に結びついたか。	小学校の遠足行事(4月)、体験入学での探究成果発表(9月)、犀峽セミナーでの外部への成果発表(11月)を実施できた。今年度より全学年で探究を通して新しく地元の方とのつながりを持つこともできた。来年度にもつなげたい。	A	今年度できたつながりを次年度に生かし、アイデアを深める段階へつなげる。また、学年合同での活動も取り入れることでさらに深めることも期待できるかもしれない。
学校運営	学校だより等による保護者地域への情報発信を行い、連携を図る。	⑤	学校だより等の定期的な発行 公開授業、犀峽セミナー等への参加者を増やす取り組み ホームページを用いた情報の発信	保護者や地域へ本校の取り組みが十分伝えられたか。	定期的に学校だよりを発行した。 犀峽セミナーの対面参加とWeb参加を行った。 定期的にホームページを更新した。	A	学校だよりとHP更新を速やかにしていく、コロナの感染対策をとりながら、参加者の増加に取り組む